

キリスト教宗教哲学連続講演

講演者 マルクース・エンダース (ドイツ・フライブルク大学教授)

助成 日本学術振興会科学研究費(研究番号 16J04646)

エンダース教授 (Prof. DDr. Markus Enders) について

1963年、ドイツ・フルダ生まれ。ドイツ・フライブルク大学神学部キリスト教宗教哲学科教授。同学科付属現代フランス宗教現象学研究所所長代理。マイスター・エックハルト協会(ドイツ)理事。

マイスター・エックハルトやハインリヒ・ゾイゼといったドイツ神秘思想を中心に、宗教と哲学との関係性の観点から、広く中世哲学についての研究を発表。また、ハイデガーとトマス・アキナスの超越概念を比較した研究で神学博士号を取得するなど、現代哲学、特に現象学についての造詣が深い。近著に『中世における宗教の哲学—アンセルムスからクザーヌスに至るまでのキリスト教思想家とユダヤ教・イスラム教との対話』(Alber社、2017年)。また、編著として『宗教の現象学—その入り口と根本的問い』(Alber社、2005年)。

第一部：現象学

「最も情緒的な価値応答としての愛」

ディートリッヒ・ヒルデブランド (1889-1977) における人格的愛の価値現象学的な理解について

司会：長町裕司 (上智大学文学部哲学科教授)

通訳：横山陸 (一橋大学/日本学術振興会特別研究員)

10月6日(金) 18:00開場、18:30開始 (2時間ほどを予定)
上智大学 四谷キャンパス7号館4階 文学部共用室A
(JR中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線 四谷駅徒歩5分)

主催：上智大学文学部哲学科 長町研究室

(連絡先：長町 y-nagama@sophia.ac.jp / 横山 yoko0603@gmail.com)

第二部：中世形而上学、神秘思想

「神はあらゆる様態において一である」

マイスター・エックハルト (ca. 1260-1328) によるマイモニデス「一性形而上学」の受容と変容

司会：田島照久 (早稲田大学文学学術院教授)

特定質問：山崎達也 (早稲田大学文学部非常勤講師)

通訳：松澤裕樹 (早稲田大学文学部非常勤講師)

10月7日(土) 13:30開場、14:00開始 (2時間ほどを予定)
早稲田大学 戸山キャンパス39号館 第七会議室
(東京メトロ東西線 早稲田駅徒歩3分、副都心線 西早稲田駅徒歩12分)

主催：早稲田大学文学研究科哲学コース 田島研究室

(連絡先：西村 non.nisi.me@gmail.com)

※入場無料・事前予約不要。発表自体はドイツ語ですが、日本語訳原稿が配布されます。また、質疑応答には通訳が付きます。